

学びっ!

人と自然の応援情報誌

ハーモニー76号  
23枚 ㊟2-009A3

## ひとはく新聞



TEL:079-559-2001 (ひとはくの代表番号です)  
 TEL:079-559-2002 (学校や団体のご利用の方はこちらにおかけください)  
 TEL:079-559-2003 (セミナーやイベントなどのお問い合わせ先です)

〒669-1546  
 兵庫県三田市弥生が丘6丁目  
 兵庫県立人と自然の博物館  
 (兵庫県立大学 自然・環境科学研究所)

http://hitohaku.jp

## 副館長がみた 「ひとはく20年の歩み」後編



前編では歴代の準備室長、館長の在任期間を区切りに二代目河合雅雄館長まで、後編では引き続き、三代目館長より「ひとはくの20年」を顧みる。

三代目館長は、植物学研究の第一人者で、現館長の岩槻邦男先生である。誰も経験したことのない成熟社会、少子高齢社会を迎え、これまでの館の活動を継承しつつ、全館員参加のもとで、「博物館の『新たなマネジメント』への挑戦」が進んでいる。その一例が、胎教から墓場までを意図した「生涯学習院」「展示から演示」などのキーワードを導入した「新たな『兵庫県立人と自然の博物館』基本構想の策定(平成19年)」である。ここに盛り込まれた内容は、館の日常活動の中で試行的に導入され実現されている。名古屋での生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)を契機に、従来から進んでいた「生物多様性」への試みをより充実させ、展開している。例えば、兵庫県や神戸市をはじめ行政、企業での生物多様性戦略策定への協力・後援と里山などでの現場での実践がある。生涯学習では、従来から希薄であった乳幼児期の環境学習支援をすべく「キッズひとはく推進室」を設置し活動がはじまっている。東日本大震災後、被災地の子どもたちを元気づけようと「キッズひとはくキャラバンin仙台・八戸・久慈」が実施された。多くのこれらの試みは、館長リーダーシップのもと、館員の発案、提案に基づき実施される状況が実現している。これまでの博物館ではややもすると希薄であった『新しいマ

ネジメント』の姿を現場で実践し、発展し、発信し続けているものと思っている。この時期に、丹波、篠山での相次ぐ恐竜化石等の発見の明るい話題が加わっている。20年を思い返してみると、このような活動が展開できたのは、新しい博物館を創ろうという皆様の献身的なご支援によるものである。自然系博物館(仮称)基本構想でお世話になった近藤典生先生(元進化生物学研究所理事長)、新たな『兵庫県立人と自然の博物館』基本構想でお世話になった三浦朱門先生(作家、元文化庁長官)をはじめ、多くの県民・市民、NPO、企業、行政等の皆様のご支援・ご協力のおかげである。特に、NPO法人「人と自然の会」や地域研究員の皆様には長い期間にわたり博物館活動を支えて頂いているし、「共生のひろば」「ひとはくフェスティバル」等の関係者の皆様にも多大なご協力を得ている。さらに、博物館の設置者である兵庫県の多くの方々のご支援ご指導があったことは博物館マネジメントの推進に大いに支えられている。関係者の皆様はこの紙面を通じて、心からお礼を申し上げる次第である。

中瀬 勲

(兵庫県立人と自然の博物館 副館長)



COP10でのひとはくブース



ひとはくキャラバンin仙台



共生のひろば

ひとはくコラム

### 植物標本で 何がわかる？

ひとはくの収蔵庫にはたくさんの標本が保管されています。開館以来20年、館員による調査研究や寄贈などにより、植物については10万点を超える標本が集積されましたが、このたくさんさんの標本はいったいどのように使われるのでしょうか。

標本がたくさんあると、複数の標本を比較検討することができるので、正確な種名の同定と詳しい分布情報が得られるようになります。たとえば一昨行われた兵庫県レッドデータブックの改訂では、何万枚もの植物標本が調べられ、掲載基準の科学的根拠を示すことができたと思います。

植物標本は、その採集された場所や季節によって一つひとつ姿が違いますが、これらの標本を丹念に見ていくと、標本ごとに違っている部分と同じ部分とがあることがわかってきます。たとえば、ある植物では葉の大きさは標本ごとにまちまちなのに、葉の縁のギザギザや葉裏の毛の長さなどの葉でもよく似ていることがあります。その場合、葉の縁の様子や毛の状態がその植物の種名を決めるための重要な特徴であり、葉の大きさの違いでは種名を決められないことがわかります。このように種名を決めるための特徴を探すには、たくさんさんの標本を比較する必要があります。ひとはくでは植物標本を実際に触ってもらう機会も用意しています。よく似た植物をどこでどのように識別するのか、その微妙な違いがわかるようになると、植物の進化がわかる!? かもしれません。

高橋 晃

(兵庫県立人と自然の博物館 研究部長)